

CES2025
調査報告書
(サンプル)

2025 年 1 月 17 日
OSS BroadNet Inc.

目次

1. 全体傾向	4
1.1 出展企業・団体数.....	4
1.2 来場者数.....	4
1.3 イノベーションアワード	4
1.4 基本テーマ	5
1.5 主要企業のプレスカンファレンス	5
1.5.1 Samsung (Samsung Electronics JH Han CES)	5
1.5.2 LG (William Cho President/CEO)	6
1.5.3 Panasonic (楠見雄規 Panasonic グループ CEO)	6
1.5.4 トヨタ (豊田章男会長)	7
1.5.5 ホンダ (井上勝史専務)	7
1.5.6 ソニー・ホンダモビリティ (水野泰秀会長)	7
1.5.7 所感.....	7
2. CES2025 ブースツアー	10
2.1 West Hall.....	10
2.1.1 ホンダ (#4640)	10
2.1.2 スズキ (#5340)	11
2.1.3 WAYMO (#5040)	12
2.1.4 ZEEKR (#5640)	13
2.1.5 SAMBO A&T (#7320)	13
2.1.6 TIER IV (#3460)	14
2.1.7 John Deere (#5016)	14
2.1.8 Schaeffler (#4140)	15
2.1.9 クボタ (#5700)	15
2.1.10 コマツ (#5316)	16
2.1.11 SONATUS (#4422)	16
2.1.12 京セラ (#4816)	17
2.1.13 BOE (#3826)	17
2.2 Norh Hall.....	18
2.2.1 XPENG AEROHT (#10115)	18
2.2.2 LOTTE INNOVATIVE・CALIVERSE (#8913)	18

2.2.3 日本テレビ（#9527）	19
2.3 Central Hall	20
2.3.1 LG（#15004）	20
2.3.2 Samsung（#18604）	22
2.3.3 TCL（#17704）	24
2.3.4 Hisense（#16625）	26
2.3.5 SONY（#20800）	27
2.3.6 Sony-Honda Mobility（#19904）	28
2.3.7 Panasonic（#16605）	29
2.3.8 Smart Glass	30
2.3.9 NXP Semiconductors（#107）	31
2.3.10 Aptera Motors（#517）	31
2.4 South Hall.....	32
2.4.1 DIC（#40726）	32
2.4.2 GEEKOM（#31166）	32
2.4.3 xVic（#41614）	33
2.5 Venetian Level 2	34
2.5.1 Smart Home platformer	34
2.5.2 Smart Lock.....	35
2.5.3 Digital Health.....	36
2.5.4 Smart Glass	38
2.5.5 Food Tech	38
2.5.6 国別パビリオン	39
2.5.7 日本企業.....	39
2.6 Venetian Level 1（Eureka Park）	40
2.6.1 Floor Map.....	40
2.6.2 Japan Pavilion（J-Startup）	41
2.6.3 Japan Pavilion（Japan Tech Project）	42
2.6.4 Robotics	42
3. CES Innovation Award	43

購入者の属する組織内での報告以外の目的での本書の複製・配布・流用・加工を禁じます。
表現の簡便の為、本書中に登場する各企業様の社名への敬称は、全て省略しております。
同様の理由から、各社の登録商標・商標への®または TM マークの付記は、全て省略しております。

1. 全体傾向

出所: CTA, Show Daily, 主要日刊紙, ネット検索

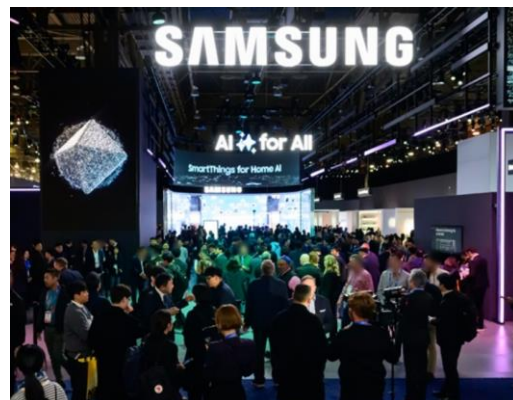
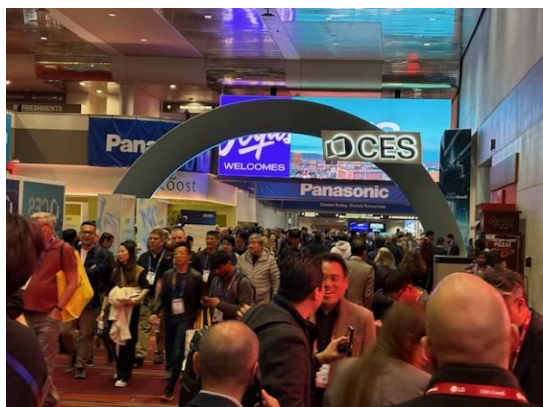
1.1 出展企業・団体数

・ 昨年の 4300 を上回り 4500、160 を超える国や地域から出展があり、コロナ禍前の 2020 年の 4500 に戻った。スタートアップも昨年の 1400 に達した。

・ 米国政府の中国企業制裁の影響でファーウェイなどの大企業を除き中国勢が復活し 1399、近年出展が伸びている韓国製 1031 と共に大きな存在感があった。ちなみに米国は 1509。

1.2 来場者数

昨年の 135,000 人を超え 141,000 人になりどこも混雑していた。ただコロナ禍前の 170,000 人レベルには戻っていない。



1.3 イノベーションアワード

・ 優れた製品に贈られる賞で、今年は 33 のジャンル（内 4 つが新設）に 3400 超の応募があり 458 が選ばれた。出展しない企業も応募できるので、会場の一つであった Venetian Expo level 2 に一部の受賞製品が展示されていた。

1.4 基本テーマ

・CES2025 は「CONNECT SOLVE DISCOVER, DIVE IN」で「繋がれば発見があるので、没入しよう」ということだが、具体的には昨年に続いての「AI」。基調講演のトップバッターであった NVIDIA のジェンスンファン CEO が「ロボットの AI を開発する企業には基盤技術が無償で提供する」と発表し、AI により自然な動きができるヒト型ロボットの実現に強い関心を示したことで大きな話題になった。

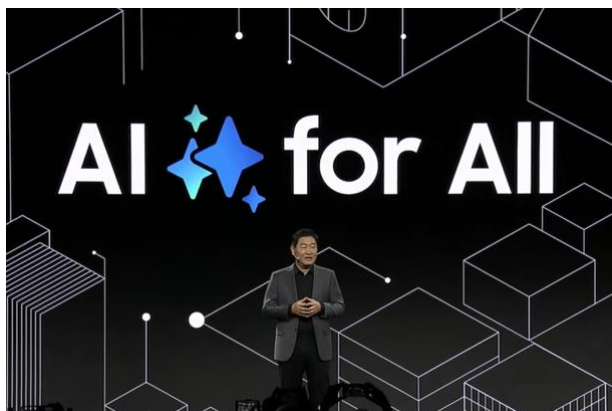


1.5 主要企業のプレスカンファレンス

1.5.1 Samsung (Samsung Electronics JH Han CES)

・今年のテーマは昨年同様「AI for All」で、スマートホームの自社プラットフォームである「SmartThings」の広がりを加速していく。現在 SmartThings の接続パートナーは 340 社
・自社の技術である「Knox (モバイルセキュリティ)」、「Bixby (AI 音声アシスタント)」、「SmartThings (スマートホーム)」と AI を駆使して、家の中の全てのものがつながる「Home AI」の実現を目指している。

・「SmartThings」の BtoB モデルとして「SmartThings Pro」を今年 1Q にリリースし、ホテルなどのビジネスパートナー向けのみならず、サムソン重工と協業し小型船舶に、現代自動車と車に導入して SmartThings の便利なコネクットの価値提供実現をめざす。



1.5.2 LG (William Cho President/CEO)

- ・「Affectionate Intelligence (AI)」という言葉掲げ、LG の新たな戦略は「スマートホーム」から「AI ホーム」への進化を加速していく。

- ・AI を活用して顧客に対する理解を深め共感することで、顧客によりパーソナライズされた体験をもたらすコンセプトとして「Affectionate Intelligence」を定義。AI を再定義して技術の先進性ではなく、顧客体験向上を重視する姿勢を打ち出していく。

- ・実現にあたっては

- ①昨年 7 月に買収したオランダのプラットフォーマー「Athom (ハブ Homey が 170 の IoT ブランドにコネクト)」のオープンエコシステム

- ②自社 AI エンジン「FURON (フューロン)」

- ③Microsoft とのパートナーシップでの AI データセンターの活用が重要となる。

- ・家庭内ではつながる家電の AI 化で「Zero Labor Home」という家事からの解放、「In-Cabin Productivity」という出勤時に運転する車の中での社内会議などの執務を行える機能拡充で生産性を上げ、暮らし中にゆとりを実現する。



1.5.3 Panasonic (楠見雄規 Panasonic グループ CEO)

- ・1976 年ニューヨークで開催された CES 第一回よりこれまで連続して出展。今年は「Well into the future」をテーマに「ネット ゼロ オペレーションを目指すサステナビリティ」を強調した展示。

- ・「Panasonic Go」という戦略で 2035 年までに AI 関連事業の売上比率を、現在の 10%から 30%にする。

- ・具体的なサービスの一例としてアマゾンが出資している対話型 AI の「アンソロピック」と提携し、「Umi」というサービスを 25 年に米国で始める。家族それぞれの要望や悩みを AI が聞き取り、イベントや旅行を提案し家族関係改善に役立てるというもの。

1.5.4 トヨタ（豊田章男会長）

- ・2020 年の CES で発表した「ウーブンシティ（Woven City）」プロジェクトの進捗を発表。富士山麓の旧関東自動車工場の跡地に建設中の未来の実験都市で、自動運転車やロボットなどを試すニュータウン。
- ・最終的にトヨタグループの社員やその家族 2000 人が居住する計画で、2025 年秋にも第 1 期として 100 人が住み始める予定。



1.5.5 ホンダ（井上勝史専務）

- ・昨年の CES で発表したホンダ初の EV「ゼロシリーズ」の試作車 2 種類を公開。主力車種サルーンと中型 SUV で 26 年から米国で発売開始し、その後全世界に展開する予定。
- ・20 年前に CES で展示したロボット「ASIMO」の OS と AI を組み合わせ、使えば使うほどパーソナライズする「超個人最適化」を実現する。人のように判断し走行中は譲り合いもする。
- ・アイズオフ（自動運転レベル 3）による自動運転をカメラとセンサーがリアルタイムに可能にするために、AI 処理速度が通常の 500 倍になる SoC をルネサスの 3 ナノチップを搭載する。

1.5.6 ソニー・ホンダモビリティ（水野泰秀会長）

EV セダン「アフィーラ」を今月 6 日からカリフォルニア州で予約受付を開始し、納車は 26 年中ごろから順次行う。価格は 89,900 ドル（1423 万円）。

1.5.7 所感

CES は昨年、前身のラジオショー（Radio Manufactures of America）から数え 100 周年を迎え（1976 年に CES に衣替え）、今年から新たな世紀に入ることでもあるためかロゴや Web サイトがリニューアルされた。しかし Web サイトの使いづらさ、ブースの埋まり具合、常連出展者であった Google の出展見送り、LVCC の全面リニューアル工事が継続中で